

関係各位

大阪府環境農林水産部農政室長

病害虫発生予察情報について (予報第3号(7月))

標記について、次のとおり発表します。

《7月の病害虫発生予報》

<作物>

程度 品目	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
水 稲			いもち病		
			縞葉枯病		
			(ヒメトビウンカ)		
	スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ) 発生に注意				

<果樹類>

程度 品目	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
ぶどう			べと病		
				褐斑病	
			晩腐病		
			ハダニ類		
			チャノキイロアザミウマ		
もも			せん孔細菌病		
			シンクイムシ類		
みかん			黒点病		
				ミカンハダニ	
バラ科 果樹	クビアカツヤカミキリ(発生に注意)				
果樹類 全般				果樹カメムシ類	

<野菜類>

程度 品目	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
なす		すすかび病			
			灰色かび病		
			うどんこ病		
		アザミウマ類			
トマト・ミニトマト			葉かび病・すすかび病		

＜花き類＞

品目 \ 程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
きく				黒斑病・褐斑病	
		白さび病			
	アザミウマ類				

＜その他＞

品目 \ 程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
野菜類・花き類				シロイチモジヨトウ	
				ハスモンヨトウ	
				コナガ	
				アブラムシ類	

《今月のトピックス》

■今後の発生に注意が必要な病害虫

【ぶどう】 べと病

【バラ科果樹】 クビアカツヤカミキリ

【果樹類全般】 果樹カメムシ類

【なす】 アザミウマ類

【花き類】 黒斑病・褐斑病

【野菜類・花き類】 シロイチモジヨトウ、ハスモンヨトウ、コナガ、アブラムシ類

《(参考) 6月の気象予報》(大阪管区気象台 6月25日発表)

気温	低い (10%)	平年並 (30%)	高い (60%)
降水量	少ない (30%)	平年並 (30%)	多い (40%)
日照時間	少ない (40%)	平年並 (30%)	多い (30%)

(詳細は、一覧表参照)

A 作物

1 水稻

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
いもち病	並	〔予報の根拠〕 ・前年の巡回調査では、平年同様発生は少なかった。 ・7月の降雨量はやや多いと予想されている。 〔注意すべき事項〕 ・置き苗が発生源になるので早く処分する。 〔メモ〕 ・低温多湿で日照不足の時に発生しやすく、降雨、窒素過多、過繁茂などの場合に助長される。 ・近年、他府県において QoI 剤（アミスター、嵐、オリブライト、イモチエース等）耐性菌の発生が報告されている。
縞葉枯病 （ヒメトビウンカ）	並	〔予報の根拠〕 ・前年の巡回調査では、平年同様発生は少なかった。 〔注意すべき事項〕 ・ヒメトビウンカが飛来しないように、ほ場周辺のイネ科雑草を除草する。 〔メモ〕 ・縞葉枯病は、ヒメトビウンカにより媒介されるウイルス病である。
スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）	発生に注意	〔注意すべき事項〕 ・近年、生息地域が拡大している。 ・水深4cm以下の浅水管理を行う。 ・桃色の卵塊は水中へ掻き落とし、成貝は拾い取り、処分する。 〔メモ〕 ・田植直後から約20日後までの食害による被害が大きい。

B 果樹

1 ぶどう

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
べと病	並～ やや多い	〔予報の根拠〕 ・巡回調査では、平年同様に発生は確認されなかった。 ・7月の降水量はやや多いと予想されている。 〔注意すべき事項〕 ・露地の多発ほ場では、梅雨の晴れ間の予防が重要である。 ・農薬を散布する際は、薬害や果実の汚れを避けるため、傘・袋かけ後は棚上散布を行う。 〔メモ〕 ・5月～10月に降雨が続き、気温が低めに経過すると発生が多い。
褐斑病	やや多い	〔予報の根拠〕 ・巡回調査では、発生は平年よりやや多かった。 ・7月の降雨量は平年よりやや多いと予想されている。 〔注意すべき事項〕 ・被害葉は園外に持ち出し処分する。 ・発病を認めたら、被害葉を速やかに取り除くとともに初期防除を徹底する。

		[メモ] ・米国系品種に弱い品種が多く、デラウェア、キャンベルアーリーに発生が多い。 ・多発すると、葉が早期落葉し、果実の着色が不良となる。
晩腐病	並	[予報の根拠] ・巡回調査では、平年同様に発生は確認されなかった。 [注意すべき事項] ・昨年度発生があった園では予防散布に努める。 ・排水や通風を良好にする。 ・笠かけや袋かけを行う。 [メモ] ・糖度が高くなった収穫間際の果実に発生しやすい。 ・デラウェアに発生が多く、病原菌は結果母枝、巻きひげなどで越冬する。
ハダニ類	並～ やや多い	[予報の根拠] ・巡回調査では、発生は平年並であった。 ・7月の気温は平年より高いと予想されている。 [注意すべき事項] ・殺ダニ剤に対する抵抗性の発達が懸念されるため、同一系統薬剤の連用を避ける。 ・梅雨明け後、急激に増加する場合があるので注意する。
チャノキイロ アザミウマ	並	[予報の根拠] ・巡回調査では、発生は平年並であった。 [注意すべき事項] ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 [メモ] ・巨峰、シャインマスカット等の大粒系品種で被害が大きいので注意する。

2 もも

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
せん孔細菌病	並	[予報の根拠] ・巡回調査では、発生は平年並であった。 [注意すべき事項] ・伝染源となる葉、枝、果実を除去し、適切に処分する。 ・薬剤防除は多発してからでは効果が劣るため、早めの予防散布を心がける。降雨前が効果的である。 ・風当たりの強い園地では、防風ネット等を設置する。
シンクイムシ類	並～やや多い	[予報の根拠] ・6月のフェロモントラップ誘殺数は、平年よりやや多かった。 [注意すべき事項] ・被害果や被害枝は、ほ場外に持ち出し処分する。

3 みかん

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
黒点病	並	[予報の根拠] ・巡回調査では、平年同様に発生は確認されなかった。 [注意すべき事項] ・伝染源となる枯枝は除去する。
ミカンハダニ	やや多い	[予報の根拠] ・巡回調査では、発生は平年よりやや多かった。 ・7月の気温は平年より高いと予想されている。 [注意すべき事項] ・発生の多い園地では、防除を徹底する。

4 バラ科果樹

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
クビアカツヤカミキリ	発生に注意	[注意すべき事項] ・幼虫は、幹や枝から中華麺〜うどん状のフラス（木くず等の混合物）を出す。 ・フラスが見られた樹は、ネットを巻き付けるなど成虫の拡散を防ぐ対策をとる。ネットは高さ2m程度まで2重にしっかりと巻く。 ・6月～8月が成虫の発生時期であるので、ほ場を見回って、見つけ次第捕殺する。成虫に対しては、モスピラン顆粒水溶剤などを散布する。

5 果樹全般

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
果樹カメムシ類	やや多い	[予報の根拠] ・6月のフェロモントラップによる誘殺虫数は、平年よりやや多かった。 [注意すべき事項] ・園地により飛来量は大きく異なる可能性があるため、園内を見回り発生及び被害状況を確認する。発生が見られる場合は速やかに薬剤防除を実施する。

C 野菜類

1 なす

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
すすかび病	やや少ない	[予報の根拠] ・巡回調査では、平年より発生は少なかった。 [注意すべき事項] ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。(QoI 剤 (アミスター、ストロビー、シグナム)、SDHI 剤 (アフエット、カンタス、シグナム) は、薬剤耐性菌を生じやすいので、1 作 1 回程度の使用にとどめる。) [メモ] ・主にハウス栽培で発生する。ハウス内温度が 23～28℃位で、多湿条件下で発生が多い。曇雨天が続く、換気が不十分だと発生しやすい。
灰色かび病	並	[予報の根拠] ・巡回調査では、平年同様に発生は確認されなかった。 [注意すべき事項] ・果実に付着した花弁からの感染が多いので花弁の除去に努める。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 [メモ] ・灰色かび病は 20℃程度、多湿、日照不足で発生が多くなる。 ・QoI 剤 (シグナム)、SDHI 剤 (アフエット、カンタス、シグナム) は、薬剤耐性菌を生じやすいので、1 作 1 回程度の使用にとどめる。
うどんこ病	並	[予報の根拠] ・巡回調査では、発生は平年よりやや少なかった。 ・7 月の気温は、平年より高いと予想されている。 [注意すべき事項] ・密植を避け、過繁茂にならないよう摘心・摘葉をこまめに行う。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 [メモ] ・うどんこ病は日照不足、高温乾燥条件下で多発する。 ・QoI 剤 (アミスター、ストロビー)、SDHI 剤 (アフエット) は、薬剤耐性菌を生じやすいので、1 作 1 回程度の使用にとどめる。
アザミウマ類	並～ やや多い	[予報の根拠] ・巡回調査では、発生は施設では平年並で、露地では平年よりやや多かった。 [注意すべき事項] ・多くの薬剤に対して感受性が低下しており、発生が増えると防除が困難である。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 ・葉の被害に注意し、少発生時の防除を徹底する。 ・ハウス栽培では、開口部を 0.8mm 目合いの赤色ネットで被覆し、成虫の侵入を防止する。 ・露地栽培では、天敵昆虫の温存を図るため、ソルゴー囲い込み栽培などを行う。

2 トマト・ミニトマト

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
葉かび病・ すすかび病	並～ やや多い	[予報の根拠] ・巡回調査では、発生は平年よりやや多かった。 [注意すべき事項] ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。（QoI 剤（アミスター、ストロビー、シグナム）、SDHI 剤（アフェット、カンタス、シグナム）は、薬剤耐性菌を生じやすいので、1 作 1 回程度の使用にとどめる。） [メモ] ・主にハウス栽培で発生する。ハウス内温度が 23～28℃位で、多湿条件下で発生が多い。曇雨天が続き、換気が不十分だと発生しやすい。

D 花き きく

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
黒斑病・褐斑病	やや多い	[予報の根拠] ・巡回調査では、発生は平年よりやや多かった。 ・7月の降水量はやや多いと予想されている。 [注意すべき事項] ・雨滴によって感染が拡大するので、降雨前にしっかり防除する。 ・被害葉は取り除き、ほ場外に持ち出して処分する
白さび病	やや少ない～ 並	[予報の根拠] ・巡回調査では、発生は確認されず、少ない～平年並であった。 ・7月の降水量はやや多いと予想されている。 [注意すべき事項] ・ハウスでは換気を良好にし、湿度を下げる。 ・被害葉は取り除き、ほ場外に持ち出して処分する。 [メモ] ・施設では春先と初冬に、露地では初夏～梅雨時と秋期に発病が多い。
アザミウマ類	少ない	[予報の根拠] ・巡回調査では、発生は確認されず、平年より少なかった。 [注意すべき事項] ・発生初期に防除を行う。 ・品種により被害の現れ方に差がある。

E 野菜類・花き類

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
シロイチモジヨトウ	やや多い	[予報の根拠] ・フェロモントラップへの誘殺虫数は平年よりやや多かった。 [注意すべき事項] ・発生初期（若齢幼虫期）に防除を徹底する。卵塊や集団でいる幼虫の除去に努める。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
ハスモンヨトウ	並～やや多い	[予報の根拠] ・フェロモントラップへの誘殺虫数は平年並～やや多かった。 [注意すべき事項] ・発生初期（若齢幼虫期）に防除を徹底する。卵塊や集団でいる幼虫の除去に努める。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
コナガ	やや多い	[予報の根拠] ・フェロモントラップ、予察灯への誘殺虫数は平年よりやや多かった。 [注意すべき事項] ・発生初期に防除を行う。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。特にジアミド系薬剤の連用は避ける。
アブラムシ類	並～やや多い	[予報の根拠] ・巡回調査では、発生は平年並であった。 ・黄色水盤による誘殺虫数はやや多かった。 [注意すべき事項] ・施設栽培では、開口部を0.8mm以下のネットで被覆し、成虫の飛来を防止する。 ・ほ場周辺の除草に努める。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 [メモ] ・アブラムシ類が媒介するウイルス病には、キュウリモザイクウイルス（CMV）などがある。 ・ウイルス病が発病した株は、まん延防止のため、抜き取り、ほ場外に持ち出し処分する。

●大阪府環境農林水産部農政室推進課病害虫防除グループ・ホームページ

（平成23年4月1日より大阪府病害虫防除所から組織名変更）

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/>

防除指針を掲載しています。

●病害虫発生情報メールサービス

申込先 大阪府環境農林水産部農政室推進課病害虫防除グループ・メールサービス担当

TEL 072-957-0520

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/mailservice/mailservicemusikomi.html>

<情報料無料、受信に要する通信費は自己負担です>

年間約15件の病害虫情報を電子メールで送付します。

●おおさかアグリメール

申込先 大阪府立環境農林水産総合研究所

企画部 企画グループ おおさかアグリメール受付担当

TEL 072-979-7070

<http://www.kannousuiken-osaka.or.jp/nourin/agrimil/>

最新の農業情報をあなたの携帯電話にお届けします。

<情報料無料、受信に要する通信費は自己負担です>

●Web版大阪府園芸植物病虫害図鑑

「ひと目でわかる花と野菜の病虫害」

<http://osaka-ppa.jp/zukan/index.php>

(大阪府植物防疫協会)